

熊取町埋蔵文化財調査報告 第40集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XVII

平成15年3月

熊取町教育委員会

は し が き

古代から熊取野とよばれた本町域は現在まで変わることなく「熊取」として独立した地域を保持し、恵まれた自然と貴重な文化遺産を今日に伝える町であります。

町内には重要文化財中家住宅をはじめ有数の文化財が知られていますが、他に埋蔵文化財包蔵地として42ヵ所を数える遺跡があるなど、町内全域に遺構や遺物が埋蔵されています。

熊取町では昭和60年度から国庫等補助金を受けて発掘調査を実施するようになり、これまでに貴重な資料を得ることができました。

本書は平成14年度国庫補助事業として実施した発掘調査の実績報告書として作成したものです。今後多方面においてご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、本年度現地での発掘調査にあたって御協力をいただきました土地所有者ならびに関係者各位に対しましてここで厚くお礼申し上げます。

平成15年3月

熊取町教育委員会

教育長職務代理者 川畑 修孝

例 言

1. 本書は、平成14年度に国庫補助金を受けて、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係が実施した熊取町遺跡群発掘調査における概要報告書である。
2. 調査は、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係考古学技師前川淳を担当者として、平成14年4月1日に着手し、平成15年3月31日をもって終了した。
確認調査では、調査区をカラーリバーサルフィルムと白黒フィルムで撮影し、平板で調査区位置図（平面図）を作成、調査区壁面図を作成し、記録にとどめた。また測量作業後は必ず埋め戻して現場作業を完了した。
3. 本書は、報告書の作成の都合上、平成14年4月1日から平成14年12月29日までの発掘調査成果及び、平成13年度事業で昨年「熊取町埋蔵文化財調査報告第37集」で報告できなかった平成14年1月5日から同年3月31日までの発掘調査成果（4件）を掲載する。
4. 本書における図面の標高は、T. P.（東京湾平均潮位）を用いた。また方位は、地図以外については磁北を示すこととした。
5. 本書における図面の土色は、「新版標準土色帖」第10版（小山正忠・竹原秀雄編、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修1990年度版）を用いて目視により比定した。
6. 本書の作成及び発掘現場での作業にあたって、下記の調査員・調査補助員・作業員の参加を得た。
関井澄子、永橋祥行、前田公子、森田享子、山本恵子
宇沢克之、太田敏治、橋本松雄、平阪博司
7. 本書の執筆は熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係考古学技師前川淳が行った。

目次

第1章	はじめに	1
第2章	地理的環境と周知の遺跡	
第1節	地理的環境	1
第2節	歴史的環境	2
第3節	周知の遺跡	3
第3章	調査成果の概要	
第1節	城ノ下遺跡02-1区の調査	5
第2節	久保A遺跡02-1区の調査	7
第3節	東円寺跡02-1区の調査	10
第4節	東円寺跡02-3区の調査	11
第5節	東円寺跡02-5区の調査	15
第6節	東円寺跡02-4区の調査	16
第7節	東円寺跡02-6区の調査	17
第8節	東円寺跡02-10区の調査	18
第9節	東円寺跡01-5区の調査	19
第10節	東円寺跡01-7区の調査	20
第11節	中家住宅周辺遺跡02-1区の調査	21
第12節	朝代北遺跡02-1区の調査	23
第13節	大久保C遺跡01-1区の調査	25
第4章	まとめ	27

第1章 はじめに

平成14年度における、文化財保護法に基づく土木工事等による埋蔵文化財の発掘の届出・通知件数は32件（平成14年12月29日現在）であり、昨年の同時期は32件であった。

本書では平成14年度12月29日までに国庫補助事業として実施した東門寺跡をはじめとする町内遺跡の調査7件、平成13年度事業で実施した大久保C遺跡1件、東門寺跡2件を合わせた10件の発掘調査の成果について概要を報告する。

平成14年度国庫補助事業発掘調査一覧表

遺跡名	所在地	申請者名	申請面積	調査年月日
城ノ下遺跡02-1区	小谷1254-2他3筆	山下 賢	484.40m ²	2002 020425
久保A遺跡02-1区	小谷南一丁目110-1	北川 善徳	353.97m ²	2002 020507
東門寺跡02-1区	野田二丁目2135-14	藪内榮治郎	120.01m ²	2002 020508
東門寺跡02-3区	野田二丁目1134-8他6筆	辻 雅典	168.30m ²	2002 020730~0806
東門寺跡02-4区	野田二丁目2119-1	小西マリ子	151.54m ²	2002 020821
東門寺跡02-5区	野田二丁目2328-8他1筆	森崎 達朗	181.83m ²	2002 020930~1002
東門寺跡02-6区	野田二丁目2135-16	久保 嘉秀	94.39m ²	2002 021015
東門寺跡02-10区	野田二丁目2383-1他1筆	藤原山紀夫	372.82m ²	2002 021203
東門寺跡01-5区	野田一丁目2135-5	小倉 嘉夫	120.05m ²	2002 020115
東門寺跡01-6区	紺屋二丁目2091-9	松並誠・岩田紀了	120.41m ²	2002 020125
中家住宅周辺遺跡02-1区	五門西一丁目10-32	富所 伸広	119.00m ²	2002 020909
朝代北遺跡02-1区	朝代東二丁目815-2	岸田美奈子	230.55m ²	2002 021218
大久保C遺跡01-1区	大久保東一丁目7-8	降井 治	177.74m ²	2002 020313

第2章 地理的環境と周知の遺跡

第1節 地理的環境



熊取町の位置

熊取町は大阪府泉南地域の中央に位置し、貝塚市・泉佐野市の両市に囲まれた町である。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと南北に長い木の葉状を呈している。町域の総面積は約17.19km²を有する。地形による面積比を見ると、山地41%、丘陵24%、段丘23%、低地12%に区分され、山地・丘陵部が町域総面積の約3分の2を占めている。地域別に見ると、町南部においては、泉南地域の基本山地の和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部が多くを占めている。また北部では狭小ながらも河川の対岸に洪積地が形成されている。町域に水源を持つ河川は雨山川・和田川・大井出川・見出川の4水系が存在してい

る。いずれも町南部の山間部を水源としており南部から北部へ向かって流下し、泉佐野市を経て大阪湾に注ぎ込んでいる。本町が瀬戸内式気候区の東端に位置しているために年間降雨量が少量であることから、古くから町域一帯に多くの灌漑用の溜め池を日にすることが出来る。

第2節 歴史的環境

町内の遺跡は平成14年12月末現在で、新たに「大久保D遺跡」が発見され43ヵ所を数えるようになった。

縄文時代以前の遺構は発見されていないが、東門寺跡の所在する熊取町野山の町立中央小学校で縄文時代早期の有舌尖頭器と石鎌が検出されているので、東門寺跡は縄文時代からの複合遺跡である。

弥生時代の遺跡も発見されていない。JR熊取駅のある大久保における駅前整備事業に伴う平成元年の発掘調査では畿内第V様式を示す土器が大量に検出され大久保E遺跡となったが、その土器は古墳時代初頭の所産と考えられている。

古墳時代の遺跡として、町中央部の山の手台住宅に五門古墳と五門北古墳が記されているが、既に開発で消滅している。

飛鳥時代については、平成10年度の久保城跡98-1区の調査で複数の溝が検出され、その中から飛鳥V様式といわれる土師器や須恵器が出土した。

奈良時代についてはこれまで東門寺跡87-1区の調査で建物4棟と土蔵、須恵器、土師器が検出されたのみにとどまっていたが、平成11年7月熊取町七山で西暦750年以降の奈良時代を示す多くの須恵器が宅地開発の発掘調査で検出され、熊取町第41番目の「七山東遺跡」となった。また小垣内においては、平成13年度の試掘調査で中世の土器とともに奈良期の須恵器破片が出土している。これらのことから熊取町全城は奈良時代には本格的に開発されていたものと考えられる。

平安時代については、野田の熊取町役場付近に想定されている東門寺の創建が、発掘調査で発見された軒瓦の比較考察から平安時代末とされている。また平成8年度には大久保から紺屋にかけての私立病院の発掘調査で黒色土器や須恵器、土師器が自然流路内から検出されている。

鎌倉時代以降中世に関しては、熊取町内の遺跡のほとんどが同時代を中心とした様相を示している。野山の東門寺跡、久保の久保城跡、大浦の大浦遺跡、紺屋の紺屋遺跡、七山の七山東遺跡では瓦器を豊富に含む包含層が存在しており、建物・溝といった遺構も検出されている。平成13年度には小垣内で幅10m程の溝跡（濠）が見つかり、新たに第42番目の「小垣内西遺跡」となった。

戦国時代については和田の重要文化財来迎寺の新本堂建設工事の際、境内から多数の16世紀の土師器皿や瓦片が出土した。

江戸時代の特異な遺跡としては、五門の重要文化財中家住宅およびその周辺遺跡、大久保の重要文化財降井家の屋敷跡がある。平成13年度の中家住宅東側隣接地での調査では、実に5,500破片の土師器皿や軒丸瓦片が出土した。

第3節 周知の遺跡

周知の遺跡一覧表

熊取町埋蔵文化財包蔵地一覧

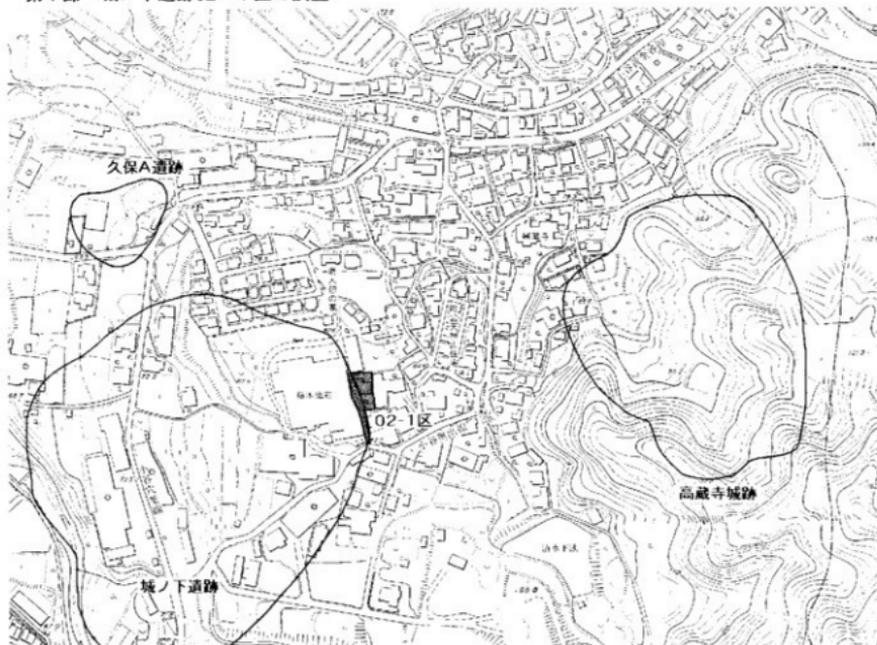
番号	遺跡名	種類	時代	地目	立地	面積	主な成果等
1	降井家曹院	建造物	室町～江戸	宅地	平地	4,000㎡	国指定重要文化財
2	中家住宅	建造物	室町～江戸	宅地	平地	4,500㎡	重文・江戸期から明治頃の陶磁器等出土
3	来迎寺本堂	寺院跡	鎌倉	宅地	丘陵段	3,100㎡	重文・15～16世紀の陶磁器・土師器検出
4	池ノ谷遺跡	散布地	田石器	水田	平地	62,300㎡	
5	甲田家住宅	建造物	江戸	宅地	平地	5,000㎡	
6	東内寺跡	寺院跡	縄文～江戸	宅地	平地	310,000㎡	縄文～江戸の複層遺跡 寺院は不明
7	城ノ下遺跡	城郭跡	室町	宅地	丘陵	61,800㎡	
8	成合寺遺跡	墓	室町	畑地	丘陵段	69,000㎡	14世紀代の600坪以上の土埴墓群等検出
9	高哉寺城跡	城郭跡	室町	山林	山頂	34,800㎡	土層・地切等の遺構を確認する
10	雨山城跡	城郭跡	鎌倉	山林	山頂	43,300㎡	月見ノ亭・馬場・千代敷の地名が残る
11	五門遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	丘陵	2,300㎡	土師器等が検出される
12	五門北古墳	古墳	古	墳	丘陵	1,900㎡	現在消滅
13	五門古墳	古墳	古	墳	丘陵	1,500㎡	現在消滅
14	大浦中世墓地	墓	室町	原野	平地	18,400㎡	享徳四年(1445)銘の五輪塔地輪等出土
15	久保城跡	城郭跡	鎌倉	水田	平地	86,300㎡	飛鳥期の溝から須恵器・土師器、他瓦器多い
16	山ノド城跡	城郭跡	鎌倉	倉	平地	6,800㎡	
17	大谷池遺跡	散布地	古墳～江戸	池	平地	51,400㎡	
18	祭礼御旅所跡	祭礼跡	室町	山林	丘陵	6,300㎡	五門・堀尾共同墓地
19	正法寺跡	寺院跡	鎌倉	倉	丘陵	55,000㎡	
20	小垣内遺跡	寺院跡	江戸	酒路	丘陵	7,000㎡	尾花門守跡 現在消滅
21	金剛法寺跡	寺院跡	室町	宅地	平地	5,100㎡	大森神社神宮寺
22	鳥羽殿城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	72,600㎡	
23	慈ノ谷遺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵段	32,000㎡	
24	花成寺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵	28,000㎡	
25	降井家屋敷跡	邸敷跡	室町～江戸	宅地	平地	12,000㎡	邸敷地を区画する溝や近世の陶磁器等出土
26	大久保A遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	8,100㎡	
27	下高田遺跡	茶屋跡	鎌倉	畑	平地	5,700㎡	
28	大久保B遺跡	墓落跡	弥生～江戸	宅地	平地	47,800㎡	弥生末～古墳初期の遺物
29	細尾遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	平地	22,400㎡	奈良～平安期の河川跡検出
30	白地谷遺跡	散布地	室町～江戸	田	谷	129,600㎡	
31	大久保C遺跡	散布地	室町～江戸	宅地	平地	4,500㎡	
32	千石原城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	1,000㎡	天正年間(1573～92)の徳川繁昌の城跡
33	口無池遺跡	散布地	平安～江戸	宅地	平地	11,200㎡	平安末～鎌倉初期の遺構、遺物
34	大久保D遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	9,200㎡	
35	大浦遺跡	散布地	鎌倉～江戸	畑	平地	4,900㎡	13～14世紀の瓦器等検出
36	久保A遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	4,400㎡	建物跡、8～14世紀の土器
37	大久保E遺跡	墓落跡	弥生～江戸	宅地	平地	2,900㎡	弥生末～古墳初期の遺物多数
38	久保B遺跡	墓落跡	鎌倉～江戸	宅地	平地	5,000㎡	13～14世紀の瓦器等検出
39	中家住宅埋蔵遺跡	墓落跡	室町～江戸	宅地	平地	21,300㎡	近世の陶磁器多数
40	朝代北遺跡	城郭跡	鎌倉～室町	宅地	平地	60,000㎡	13～14世紀の瓦器等検出
41	七山東遺跡	散布地	奈良～室町	田	平地	80,000㎡	古代須恵器・土師器・瓦器等検出
42	小丘内西遺跡	墓落跡	奈良～室町	宅地	平地	3,600㎡	古代須恵器・瓦器・瓦等検出
43	大久保F遺跡	墓落跡	弥生～室町	宅地	平地	1,436㎡	石鏡・平安期の建物等検出

熊取町遺跡分布図



第3章 調査成果の概要

第1節 城ノ下遺跡02-1区の調査



城ノ下遺跡について

城ノ下遺跡は熊取町の東部、貝塚市の西端の水間と境界を接する低丘陵地帯に位置する。この地域は熊取の東の玄関口になっており、この地域にある小谷集落などは趣において貝塚市水間と共通性を感じる。小谷地区の歴史は本町でも相当古らしく、室町時代には小谷の高倉山に高蔵寺城を築き、大内義弘の配下の八木野内匠介が在城したとされ、畠山氏に攻められ落城したといわれている。八木野氏が「刃切して果てた古井戸が「[過の井の井]」として残されている。城ノ下遺跡はその高蔵寺城のあったとされる高倉山の西麓一帯にあたり、小字名に城に関連のありそうな名前が残る地域である。また遺跡の範囲は分布調査の結果によるものとされている。

過去の調査では目立った成果はみられない。平成10年度の個人住宅における小範囲の確認調査で、瓦器破片を含む中世の包含層を確認したが、遺構といえるものはまだ発見されたことがない。平成8年度末には本遺跡の大部分を占めるひとつの低丘陵のほぼ全域を住宅地に造成する民間開発があった際に実施した確認調査では、既に完全に削平された丘陵の地山を検出するに止まった。このように現在城ノ下遺跡として範囲を指定されている地域内は、西側の水田地域以外ほとんど過去の開発で削平されているものと考えられる。ただし本遺跡の北側の丘陵裾部には僅かな範囲をもつ久保A遺跡がある

が、平成12年度の公共事業の道路建設の際、14世紀を中心とする遺物と掘立て柱建物1基を検出した。この建物は火災に遭っており、14世紀末に落城したという高蔵寺城との関連も注目される成果であった。この久保A遺跡と城ノ下遺跡はほぼ同じ性格の遺跡であるといえるだろう。

調査地 小谷1254-2、1247-2、179-1の一部、179-2の一部

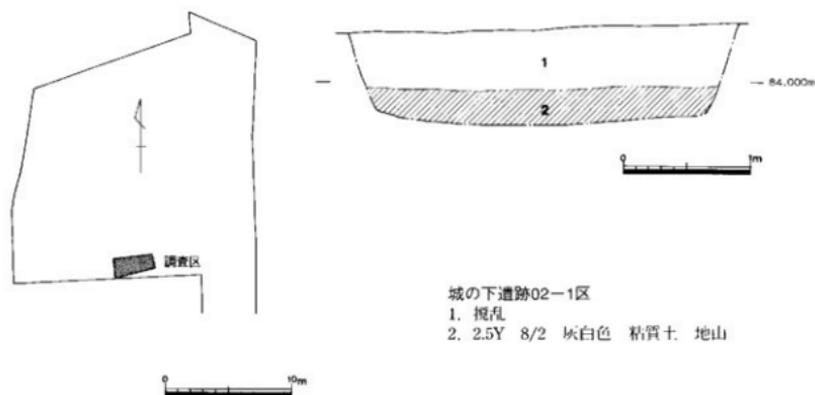
調査期間 平成14年4月25日

位置と環境

申請地は城ノ下遺跡の西端に位置し、低丘陵地の中腹にあたる。なだらかな下り坂の途中に立地し、以前から宅地となっていた場所である。また付近には河川や池などの目立ったものはない。

調査内容

調査区を設定して機械掘削によって実施した。GLより0.5m下まで現代の造成土（客土）がある。その下には完全に削平された地山が確認できた。



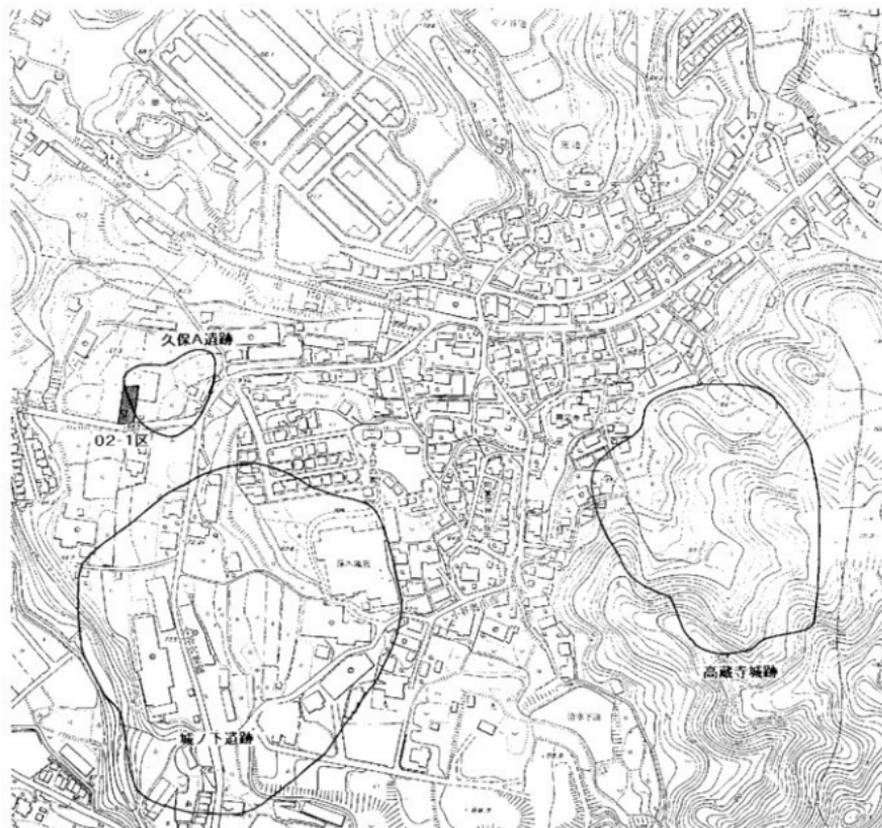
城の下遺跡02-1区

1. 掘削
2. 2.5Y 8/2 灰白色 粘質土 地山

小 結

申請地を含む周辺の低丘陵地帯は既に完全に削平されており、過去の状況を顧みる手がかりは全く存在していなかった。以前にも指摘したとおり、非常に広範囲に及ぶ当遺跡のうち、西端の旧水田地域の埋蔵文化財は比較的掘削を逃れて残存しているようである。

第2節 久保A遺跡02-1区の調査



久保A遺跡について

久保A遺跡は、平成2年の試掘調査で中世の包含層が確認されて登録された範囲の狭い遺跡である。平成12年町道の新設工事に伴う発掘調査を実施する機会に恵まれ、遺物を伴う14世紀代の掘立て柱住居跡1棟を確認する成果を上げた。(久保A遺跡00-1区) この建物を営んだのは野田に旧東円寺が建立され繁栄したとされる13世紀代ではなく、寺院が完全に焼失した後の14世紀代になってからのことである。また住居跡には明瞭な焦土が残されており、或いは室町時代の前期の南北朝期における戦乱によって焼失した痕跡であるとも考えられている。また本遺跡のすぐ東側は14世紀代に大内氏の被官が営んだとされる高蔵寺城跡との伝承が残る高倉山となっており、貝塚側からの玄関口になっている。

調査地 小谷南一丁目110-1

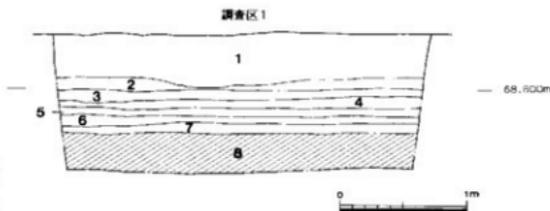
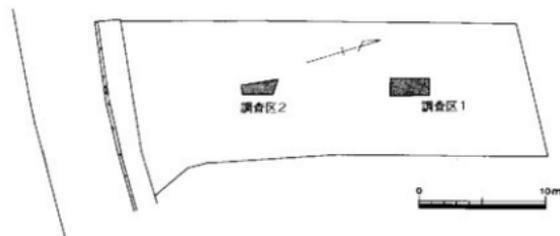
調査期間 平成14年5月7日

位置と環境

調査地点は久保A遺跡00-1区のすぐ西側の個人住宅地である。00-1区に比べると比高が低くなっている。周囲はかつて農地が多く、一時繊維工場が立ち並んだが、現在は徐々に住宅地化している。

調査内容

調査区を2箇所設定して機械掘削による調査を実施した。調査区1は住宅を建設しない部分に設定し、住宅基礎深度以下まで掘削し、状況確認に努めた。GLより-0.3mまでは近年の造成工事で攪乱されているが、以下は非常に良好な状態で保たれている。GL-0.5m以下には平成12年度の久保A遺跡00-1区の調査で検出された中世の包含層と非常に類似した層が検出されたが、その中から埋蔵文化財は検出されなかった。



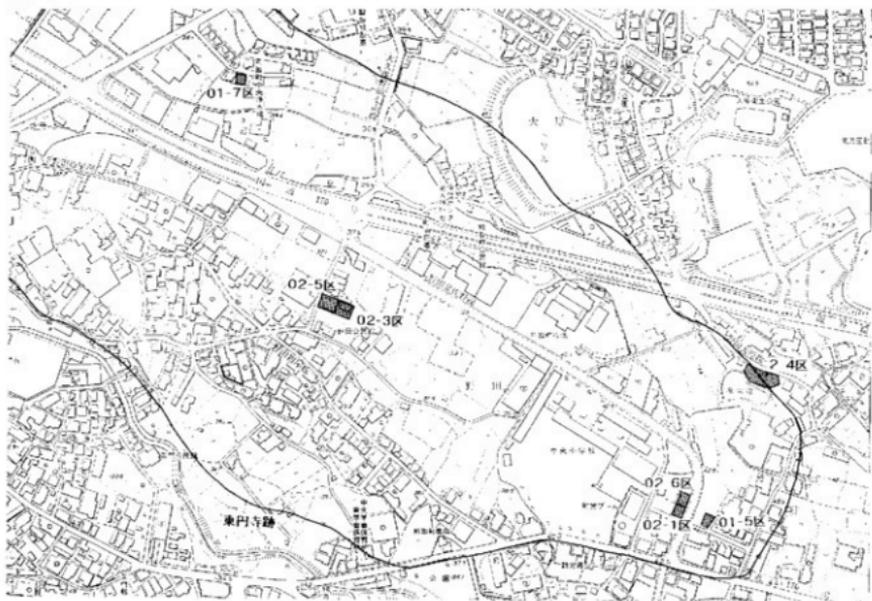
久保A遺跡02-1区

1. 擾乱
2. N 6/ 灰色 粘質土 ID耕作
3. 10YR 7/6 明黄褐色 粘質土
4. 10YR 7/2 にぶい黄褐色 粘質土
5. 10YR 7/3 にぶい黄褐色 粘質土
6. 2.5Y 7/3 にぶい黄褐色 粘質土
7. 10YR 6/6 明黄褐色 粘質土
8. 10YR 7/6 明黄褐色 粘質土 地山

小 結

平成12年に本調査を実施した町道小谷穴釜線に程近いこともあり、久保A遺跡00-1区同様に住居跡などの遺構が検出される可能性が高いものと思われたが、埋蔵文化財を確認することはできなかった。久保A遺跡00-1区よりも西側の今回の調査地点は、元来から土地が低いため、住居などには適していなかったのかもしれない。

東門寺跡について



東門寺は、野田地区の熊取町役場の南側一帯にあったとされる寺院跡である。役場周辺の大阪外環状170号線を挟むような形の約3,000㎡が東門寺跡の範囲として周知されている。

これまで範囲内で多くの発掘調査が行われて平安時代末期頃と考えられている軒丸・軒平瓦が出土したのをはじめ、瓦器碗を中心とする中世の遺物と掘立柱建物跡が検出されている。また古代の須恵器や縄文時代の石器など多くの遺物が出上しており、複合遺跡としての性格を呈している。肝心の寺院の推定中心地では調査が行われていないため寺院の伽藍配置等は全く不明である。

遺跡名になっている東門寺は現在跡形もなくなってしまっている。16世紀に著述されたとされる「葛城峯中記」には「野田山…」の記述が見られる。寺院は平安時代末期頃に創建され、中世～近世を通じて存続したものの明治維新の廃仏毀釈で完全に法灯が絶えたものとされている。

江戸時代に著述された「先代考拠略」によれば、東門寺はかつて「東暉寺(トウヨウジ)」と呼称されていたとされる。中世の東暉寺は豊臣秀吉の来襲で完全に焼亡したとされるが、江戸時代に入って再建され「東門寺(トウエンジ)」と呼称されるようになったという。

複弁蓮華文軒丸瓦や均等唐草文軒平瓦は熊取町指定文化財に指定されている。

第3節 東円寺跡02-1区の調査

調査地 野山二丁目2135-14

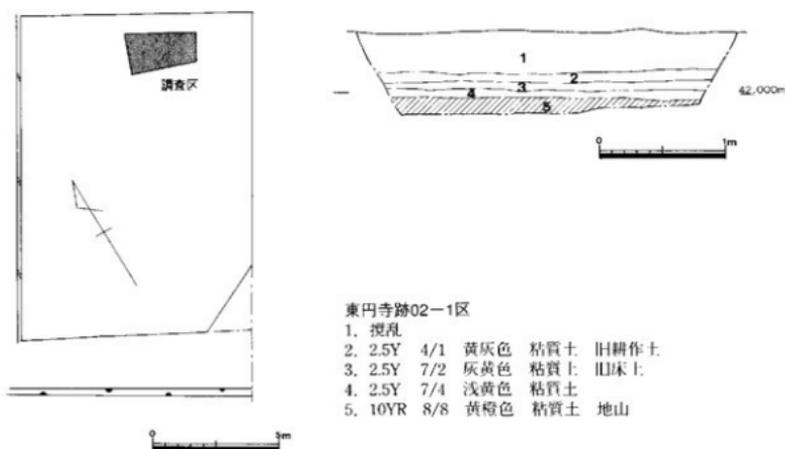
調査期間 平成14年5月8日

位置と環境

調査地点は東円寺跡の南東に位置し、熊取町役場の東、熊取町立中央小学校の東に面している。小学校では平成5年度の東円寺跡93-1区の調査で分厚い中世期の包含層と多くの遺物を検出している。また平成9年度には調査地点の西における個人住宅の建設に伴って確認調査を実施し、中世の土城暮らしき土壌を検出している。また調査地点の東南側では旧東円寺軒丸瓦の破片や14世紀代の掘立柱建物住居跡を検出するなど、比較的残存状況のよいことが確認されている。

調査内容

調査は機械掘削によって実施した。GL -0.3 mまで旧建物の造成によって盛土されている。GL -0.5 m以下には地山が検出された。その間の 0.2 mに若干の耕作土が観察できるが、中世頃まで遡れるものではない。



小 結

遺構・遺物とも検出しなかった。以前の開発で包含層ごと削平されたことがあったものと考えられる。申請地の全域では少なくとも建物などの遺構は存在していないものと思える。

第4節 東円寺跡02-3区の調査

調査地 野田二丁目2328-1他6筆

調査期間 平成14年7月31日～8月6日

位置と環境

調査地点は野田集落の北端にあり、熊取町役場のみ西南約150m付近に位置する。すぐ南側には野田地区公民館やだんじり小屋があるなど、野田地区の重要な場所であるといえる。元米農地の多い地域であったが、昭和50年代から宅地化が進み、見渡す限りの平坦な地形になったようである。周辺ではこれまで幾度と調査を実施しており、多くの瓦器や瓦片、遺構を検出している。中でも昭和62年、今回の西隣接地における分譲住宅開発に伴う発掘調査（東円寺跡87-1区）は、奈良時代の掘立柱建物4棟と中世の建物1棟を検出し、奈良期の製塩土器や多くの瓦器破片を検出するなど、東円寺跡における代表的な調査地点である。

調査内容

工事は個人住宅の新築工事で、確認調査を実施したところ、柱穴と瓦器破片等の埋蔵文化財を検出し、工事による破壊が及ぶものとの判断から、岡のように申請地域のほぼ全域を調査区に設定して、記録保存のための本調査を実施した。

層序

TP37.200m付近（GL-0.2mまで）は過去の開発で擾乱されている。その下に層厚0.5m程度の近代～近世の整地土が存在し、以下は黄褐色粘質土の地山である。このGL-0.7mの地山面には岡のように柱穴を中心とした遺構群が確認された。

遺構

このうち建物跡SB2は今年度受託事業として実施した東円寺跡02-2区で検出された建物跡SB2の柱穴群の延長上にあることも確認され、SB2の規模と方向を把握することができた。SB2は突出部分があるなど全体に複雑な形状をしているものの、東西方向に6間、南北方向は推定で6間程度の大型の母屋的な建物と推定される。この建物SB2には覆屋をもつ井戸跡SE1が付随しており特筆される。SE1埋土からは羽釜が多く出土している。

その後の協議で井戸跡SE1をはじめ柱穴群には住宅工事による破壊が及ばない見通しが出される等の諸事情から、それ以上掘削調査することを止めてそのまま埋没保存することとしたので、本調査では遺構群の平面的な位置を記録するに留めている。

試験的に柱穴201～204を掘削したところ柱抜き取り穴であることが判明した。おそらく建物SB2は放棄されず、撤去されたものと考えられる。

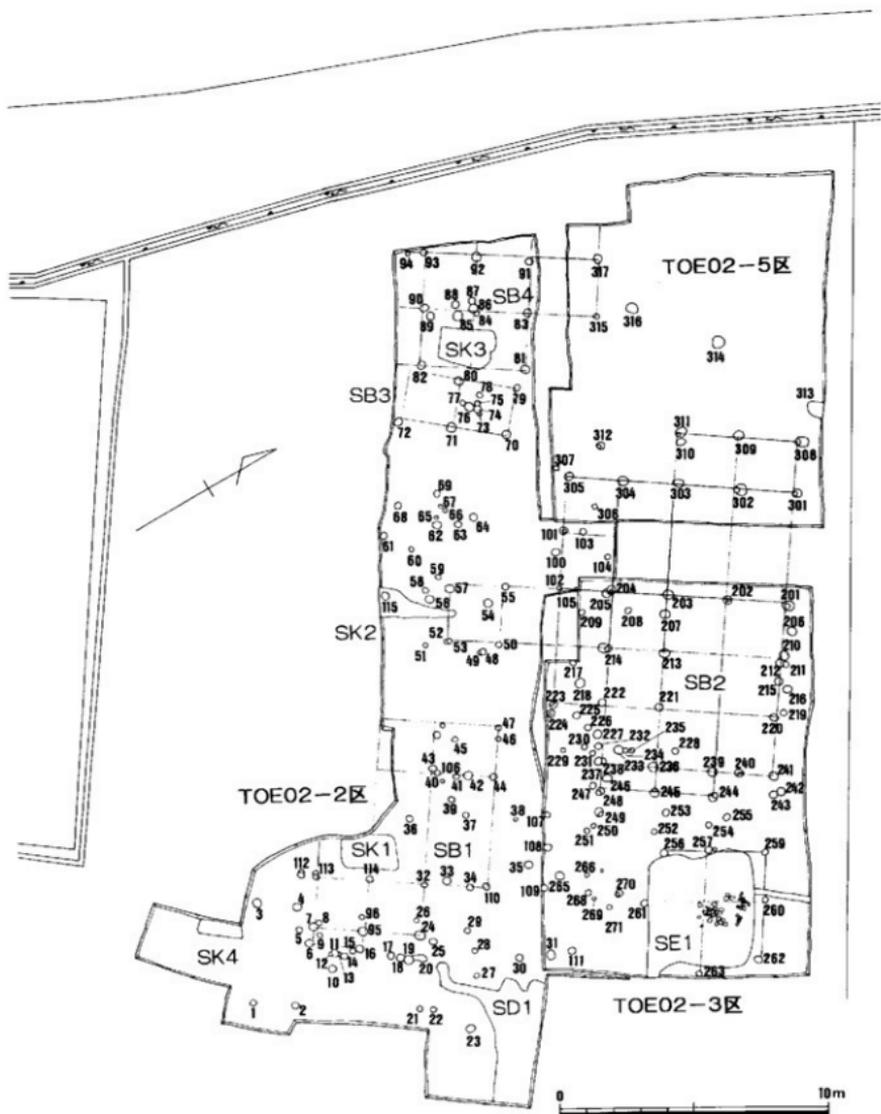
遺物

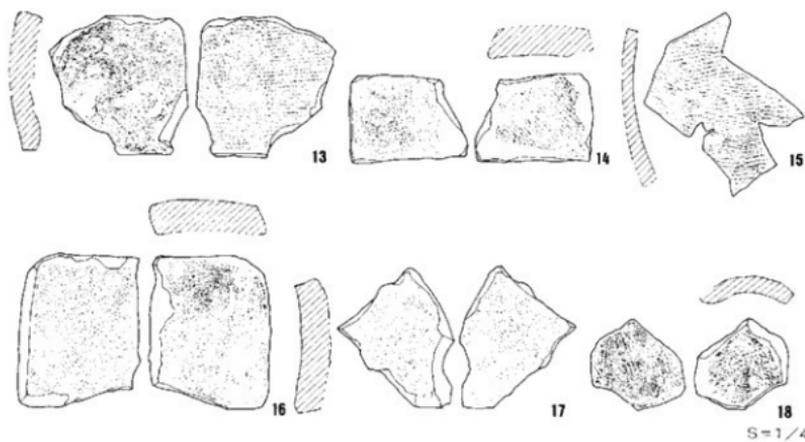
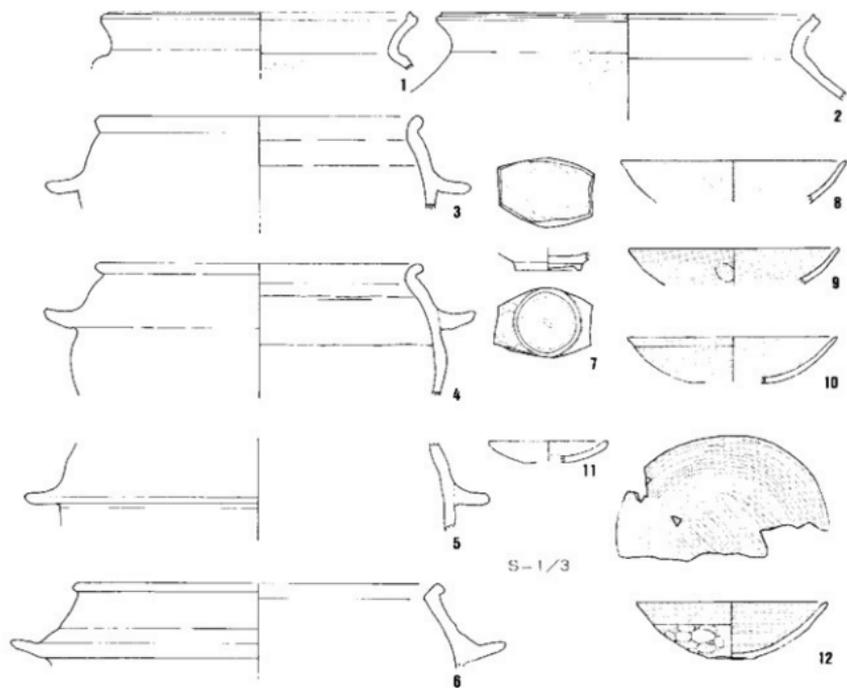
遺物はその全てが、溝SD1と井戸跡SE1からの出土である。

瓦器（椀・こね鉢）78、中世土師器（小皿・羽釜）119、古代土師器（甕口縁）4、白磁（椀高台）1、中世瓦（平瓦）3、中世須恵器（甕）3、古代須恵器（蓋）1、土塊2、鉄製品1である。

瓦器

東円寺跡02-2区と同様、椀は尾上編年上Ⅲ-3期頃とⅣ-1期頃の2通りに分類される。それらの





個体はSD 1 やSE 1 から検出されたが、このⅣ-1期以降の遺物が皆無であることから溝及び井戸が埋没したのは14世紀代であったと考えられる。

土師器

土師質の羽釜は口縁端部が外上方に反り上がるいわゆるAタイプと呼ばれるもので、使用痕が激しく全て真っ赤に変色している。6の最大径は32.1cmで、4も27.6cmを測る。

1と2は奈良期の大型の甕の口縁であろう。口径は25.2cm程度の大型品である。

白磁

白磁の高台7は、見込みに軸の掻き取りが明瞭にあることから、おそらく「大宰府条坊跡ⅩⅤ」における大宰府土器形式皿Ⅲ-1類に属する個体ではなかったかと思われる。生産年代はおよそ12世紀中頃である。椀Ⅷ類にも類似するが、高台から体部への立ち上がりが緩く、椀Ⅷ類の急な直口縁にはつながらない。

平瓦

平瓦は明らかに中世の所産で、旧東門寺に使用されていたものと同類と断定される。上下面に明瞭に布目痕が残り、厚さは2～2.5cmを測る。剥離が激しいが僅かに2次焼成が認められる。

小 結

建物跡SB 2 は13世紀の初期～中期頃の所産であろう。おそらく旧東門寺と併行して存在した住居跡である。規模が南北方向6間程度、東西方向6間とこの付近で検出された建物跡の中で最も大きく、西側に規模の大きな井戸SE 1 が存在すること等から、このSBは旧東門寺の周辺に展開した集落の中でも特に大きな住居跡であり、有力な人物が営んだ可能性がある。またこのSB 2の他に東門寺跡02-2区で検出された数棟の建物跡とは群を成していることは明らかであり、数棟で1つの住宅を構成していたものであろう。02-2区内では14世紀代の建物跡も確認されており、およそ1度の建替えを経たもの今日に至らず14世紀代に廃絶したものと考えられる。

第5節 東円寺跡02-5区の調査

調査地 野田 丁目2128-8

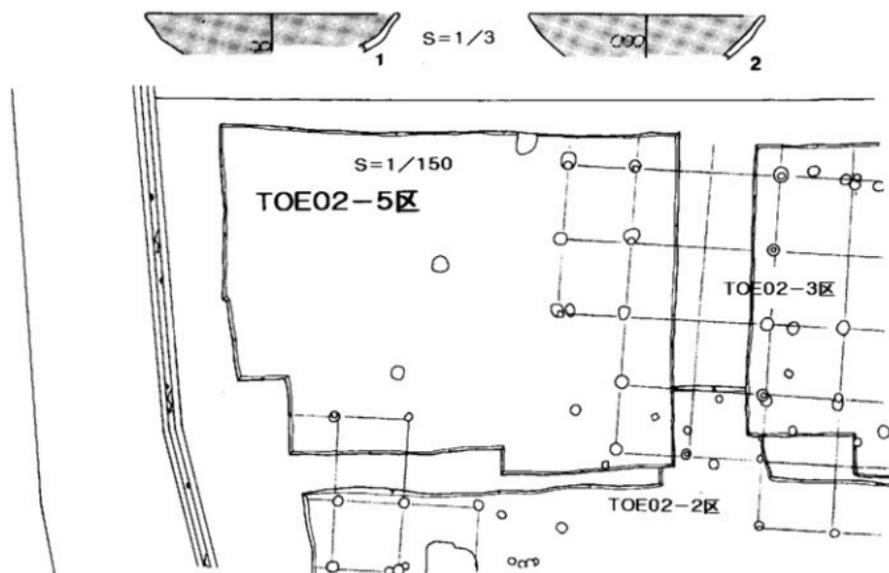
調査期間 平成14年9月30日～10月2日

位置と環境

02-5区は先述の02-3区の西隣接する個人住宅地である。

調査内容

02-3区のデーター等から中世の建物跡が存在することが予測できたため、申請地全域を対象として掘削する調査を実施した。その結果、02-3区と接する申請地の東半分のみ建物跡SB2を構成する柱穴群が検出され、反対に西半分は遺構がほとんど存在していないことが判明した。またいわゆる包含層は乏しく、地山面も後世の擾乱で削平されてしまっているらしく、土器等の残留遺物は極端に少なかった。



小 結

02-3区に比べると柱穴の数は少なく、その他の特殊な遺構はなかった。柱穴は明らかに02-3区、02-2区で検出された建物跡SB2を同時に構成していたものであり、SB2の東西方向への規模が6間であることを見極めることができた。

第6節 東門寺跡02-4区の調査

調査地 野田一丁目2119-1

調査期間 平成14年8月21日

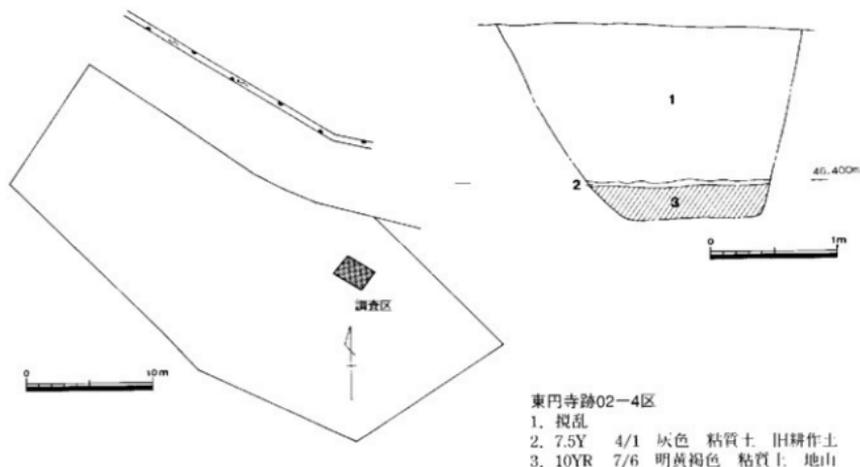
位置と環境

調査地点は東門寺跡の北東端に位置し、熊取町役場前からは北東方向に向かって緩やかに上る微高地の中腹に当たる。また申請地のすぐ南側には源太池があり、小さな池ではあるがその起源を確かめられる可能性もあった。

広大な東門寺跡の範囲内においては非常に調査例の少ない一角であり、東門寺の北東部分の範囲を見極めるには絶好の場所と考えられる。

調査内容

調査は機械掘削によって実施した。GLド-1.3mまで今回の個人住宅の建設用に盛土されており、以下に近年迄に営まれた旧耕作土が僅かに存在している。耕土は地味土として他へ搬出されたのだろう。包含層、遺構、遺物は一切検出されなかった。



小 結

個人住宅の建設にもかかわらず、かつての旧地形を確認する目的で現況より-1.7m下まで掘削した。かつて申請地は丘陵部であったが、大幅な削平を受けて開発され、田畑となったものであることが推測できた。その開発も近世以降のものであったと思われる。旧東門寺に関する遺構・遺物は一切観られなかった。また源太池の起源なども一切不明のままに終わった。

第7節 東円寺跡02-6区の調査

調査地 野山一丁目2156-16

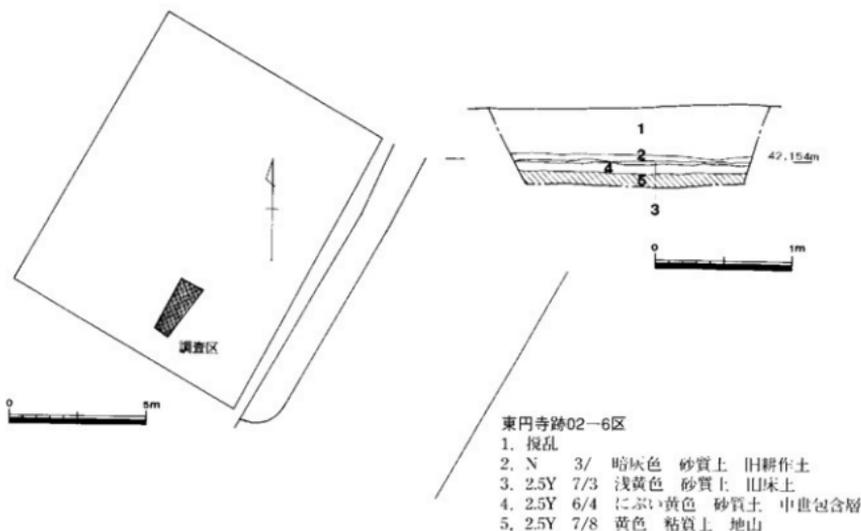
調査期間 平成14年10月15日

位置と環境

調査地点は東円寺跡の南東に位置し、熊取町役場の南東、熊取町立中央小学校の東に面している。小学校では平成5年度の東円寺跡93-2区の調査で分厚い中世期の包含層と多くの遺物を検出している。また平成9年度には調査地点のすぐ北側の個人住宅の確認調査で中世の土城墓の可能性のある長方形の上層を数基確認している。東円寺の東端に位置しており、あるいは寺院に付随する墓地などが営まれた可能性がある。

調査内容

調査区を設定して機械によってGL下-0.6mまで掘削する調査を実施した。GL下-0.4まで旧建物建設時のバラスによって盛土されており、以下に層厚0.1mの耕作土がある。耕作土の上面は大きく削平されている。GL-0.5mに中世の所産と考えられる層が1層観られたが、遺物を検出することはなかった。この層以下には地山が存在した。



小 結

目立った遺物こそなかったが、中世の包含層が厚く観られ、南面する小学校での東円寺跡93-2区の調査結果に共通点が見られた。93-2区では包含層から比較的多くの遺物を検出したものの、遺構については旧東円寺につながるものはなく、中世の耕作跡が検出されたにとどまった。今回の調査では新たな知見を得ることはできなかった。

第8節 東円寺跡02-10区の調査

調査地 野田二丁目2383-1の一部他1筆

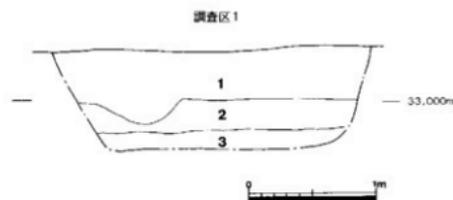
調査期間 平成14年12月3日

位置と環境

調査地点は熊取町役場の南西約300mの野田集落の只中にある個人住宅である。野田集落ではこれまで個人住宅開発などで多くの確認調査を実施し、旧東円寺と同時期の建物跡や遺物を検出するなど多くの成果を挙げているが、今回の申請地の極周辺では調査例がなかった。

調査内容

調査は機械掘削によって実施した。GL -0.8 mまで掘削したが、いわゆる地山を検出するには至らなかった。地表面から約0.4mまでは宅地の造成に伴う盛土が存在し、さらに層厚0.2mの旧耕作土と、さらに0.2m程の床土が観られる。包含層、遺構、遺物は一切検出されなかった。



東円寺跡02-10区

1. 掘削
2. 5Y 4/1 灰色 砂質土 旧耕作土
3. 10YR 7/6 明黄褐色 砂質土 旧床土

小 結

個人住宅の建設にもかかわらず、かつての旧地形を確認する目的で現況より -0.8 m下まで掘削した。申請地は現在よりもかなり低い場所にあり耕作地となっていたが、近年集落の一角として、盛土をして宅地となったことが推測できた。旧東円寺に関する遺構・遺物は一切なかったが、さらに深く掘削した場合には或いはなんらかの埋蔵文化財の存在が確認できたかもしれない。

第9節 東円寺跡01-5区の調査

調査地 野田 丁目2135-5

調査期間 平成14年1月15日

位置と環境

調査地点は東円寺跡の南東に位置し、熊取町立中央小学校の東である。本書で前述した02-6区とは一連の住宅地の一角に位置している。この総数10建ほどの住宅地開発に関しては平成13年度に約50㎡程を確認調査（東円寺跡01-1区）したが、既に地味土などの搬出作業などで大幅に削平されてしまった後だったこともあり遺構は一切確認できなかった。またすぐ南側でも平成4年に小さな宅地造成があり、この時は13世紀～14世紀頃の集落の跡と旧東円寺跡軒丸瓦などを検出している。

調査内容

調査区を設定して機械によってGL下-0.5mまで掘削する調査を実施した。GL下-0.4mから地表面まで盛土されており、GL下-0.4m付近に削平を受けた地山が確認された。



小 結

今回の個人住宅を含む宅地開発時の造成段階で既に大きく削平があったらしく、残念ではあるが現時点で埋蔵文化財は一切存在していないものと思われる。

第10節 東円寺跡01-7区の調査

調査地 紺屋二丁目2091-9

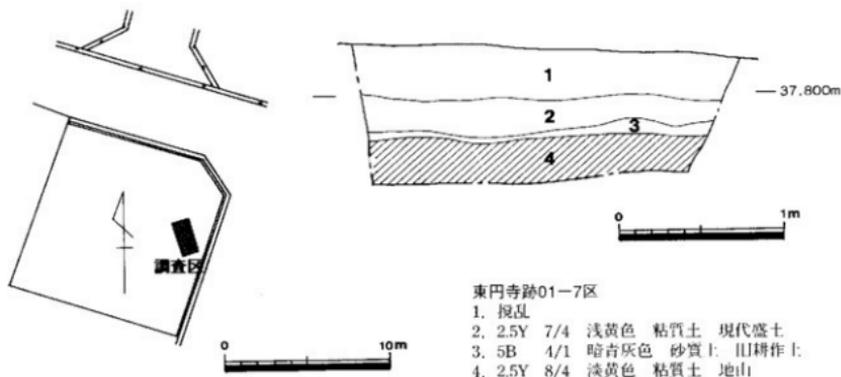
調査期間 平成14年1月25日

位置と環境

調査地点は熊取町役場から北西に約350m程の地点に当たり、北へと緩やかな丘陵が続く裾の場所である。周辺ではこれまで数度の確認調査を実施しているが、一部で中世の包含層を検出したのみに留まっている。

調査内容

調査は機械掘削によって実施した。GL下-0.8mまで掘削して土層を観察した。GL下-0.5mまで現代の盛土があり、層厚0.1mの削平された旧耕作土が視られた。これは元来もう少し厚い耕作土が存在したものの、近年地味土として他へ搬出されていった痕跡であるといえるものである。GL-0.6m以下は削平の痕跡を留める地山である。遺構、遺物は一切検出されなかった。

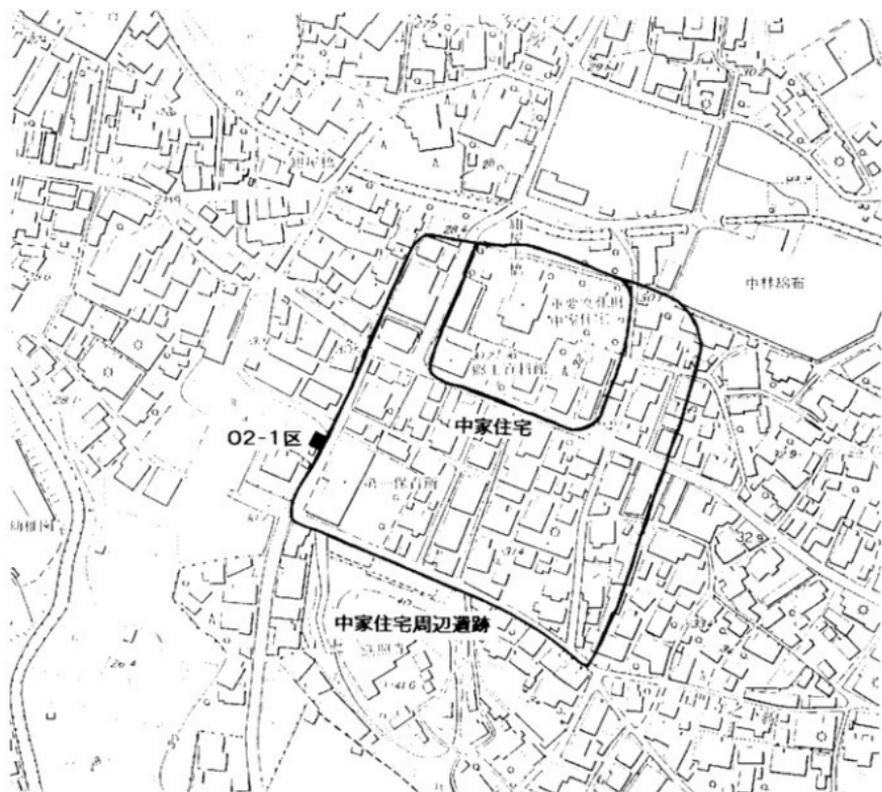


小 結

申請地は元来は低丘陵地域で、中世から近世まで開発が及んでいなかったものと思われる。近世もしくはそれ以後に丘陵肌を切り開いて耕地としたのであろう。そして現代になって、地味土を他へ搬出し、農地を廃して造成を加え、宅地としたものと考えられる。

またこれまでの周辺地での調査結果と照合すると、旧東円寺やその周囲にあった集落の範囲は、現在の大阪外環状線以北には及んでいなかったと断定できるだろう。ただし、熊取町役場から以北の場所では、中世の集落はなくとも、旧東円寺の瓦を焼く窯跡などが発見される可能性は残されているので引き続き注意が必要である。

第11節 中家住宅周辺遺跡02-1区の調査



調査地 五門西二丁目10-32

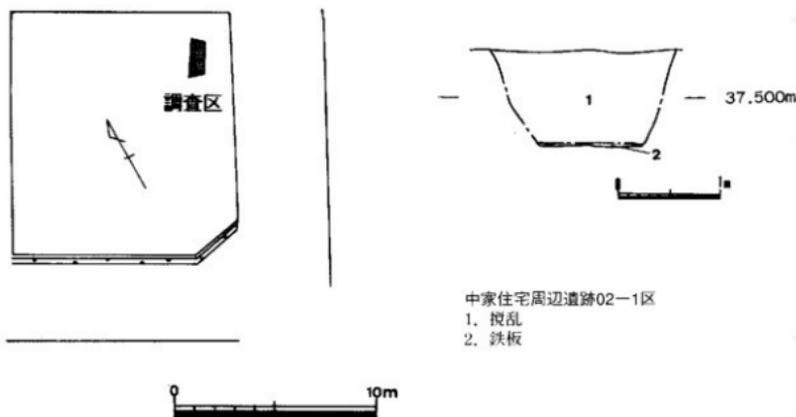
調査期間 平成14年9月9日

位置と環境

申請地は重要文化財中家住宅の南側の比較的平坦な住宅地に位置している。また地理的に付近には河川や池などの特徴な地形は見られない。本遺跡は平成8年に新たに熊取町第40番目の遺跡として新規に登録したものである。重要文化財中家住宅の周辺にはかつてより中～近世の遺物が出土する事例があったが、熊取の中世から近世に有力な上豪から筆頭庄屋となった中家の屋敷地およびその周辺は集落を形成し、ひとつの地域を成していたようである。中家の周辺地にあったと考えられる集落は中家とは非常に密接に関連していた施設と思われるが、その詳細な状況が発掘調査で確認された例はない。

調査内容

調査は機械掘削によって実施した。G1以下には大幅な埋め立て土が覆られ、巨大なコンクリート・鉄板が存在した。これらは最近まで当地に存在した綿織物関係の工場の基礎等の施設であると考えられる。これらの攪乱は強固で、それ以下を掘削できる状態ではなかった。また調査区とは別に申請地内を数箇所小さく掘削したが、状況は同じで工場の施設の痕跡が出現するばかりであった。攪乱の中からも埋蔵文化財は一切検出なかった。



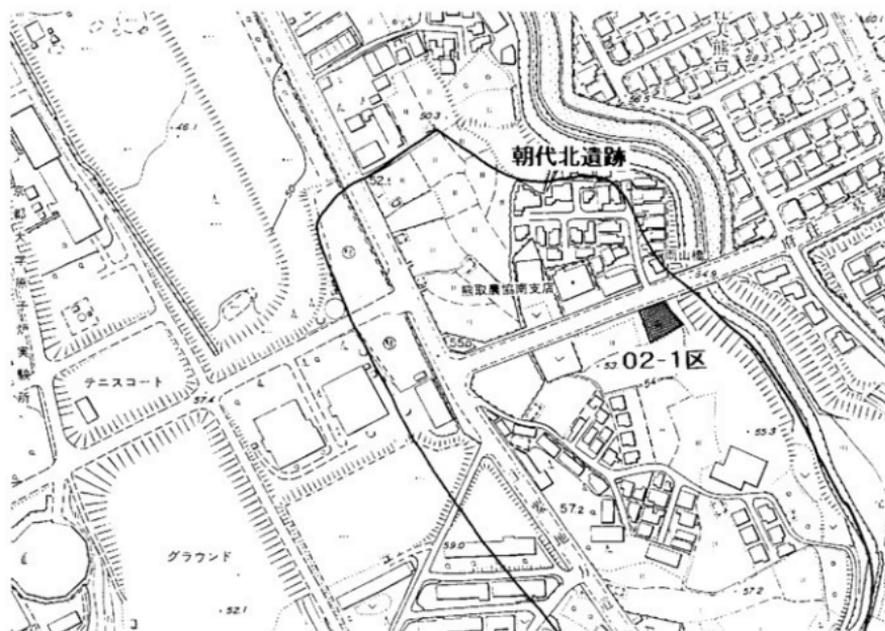
中家住宅周辺道跡02-1区

1. 攪乱
2. 鉄板

小 結

中家住宅との関連する施設や集落の検出が期待されたが、埋蔵文化財は一切検出されなかった。申請地を含む周囲は大正～昭和初期頃の繊維工場の建設に伴って大幅に造成され、攪乱を受けたものと考えられる。今後も周辺地での調査例を増やし、近世に大庄屋として栄えた中家、ひいては熊取の歴史に迫れる資料が検出されることを望みたい。

第12節 朝代北遺跡02-1区の調査



朝代北遺跡について

朝代北遺跡は熊取町の中南部、近年大阪体育大学が設立された南部の丘陵地帯の北麓にあたる朝代集落の北西一帯である。本町には南北方向に西から雨山川、和田川、大井出川、見出川の4河川が北流しているが、本遺跡のある低地は、4河川のうち最西の雨山川の左岸流域に南北に長く展開している。この流域には、住友電気工業熊取製作所や京都大学原子炉実験所などの大規模な施設が建設されている。平成9年度のコンビニエンスストアの建設に伴う試掘調査で初めて中世の包含層が検出されて、熊取町第40番目の「朝代北遺跡」として周知され、以後数度にわたる確認調査等でさらにその範囲を拡大した。

調査地 朝代東二丁目815-2

調査期間 平成14年12月18日

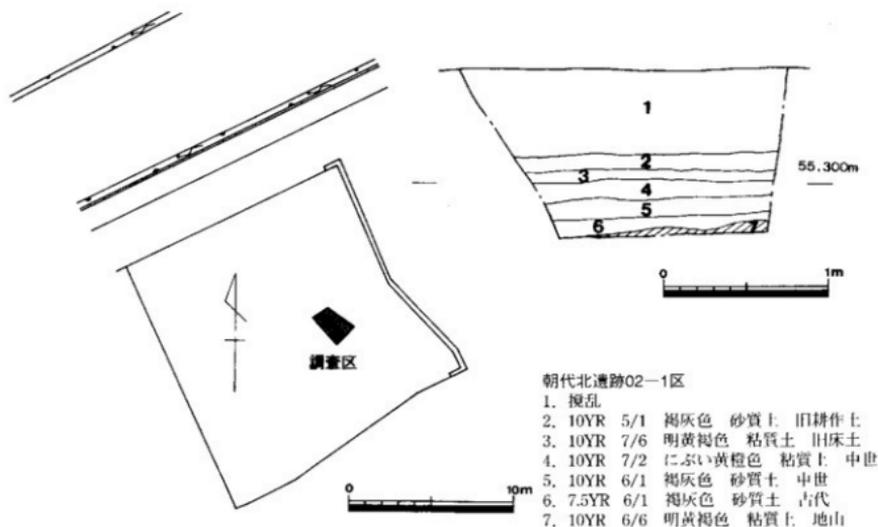
位置と環境

JR熊取駅方向から南へ主要地方道泉佐野・打田線を下って、大阪体育大学に向かうと右手に京都大学原子炉実験場や企業の大規模施設が並んで見える。調査地点は主要地方道泉佐野・打田線を挟んで京都大学原子炉実験所の真反対側で、JA熊取南出張所の南側である。周辺地域はかつて一面に田畑が広がっていたが、近年ミニ開発や飲食店の建設が盛んに行われ、道路面に合わせるよう盛土による造成が実施

されるなどしたため、旧状を大きく失った住宅地になっている。

調査内容

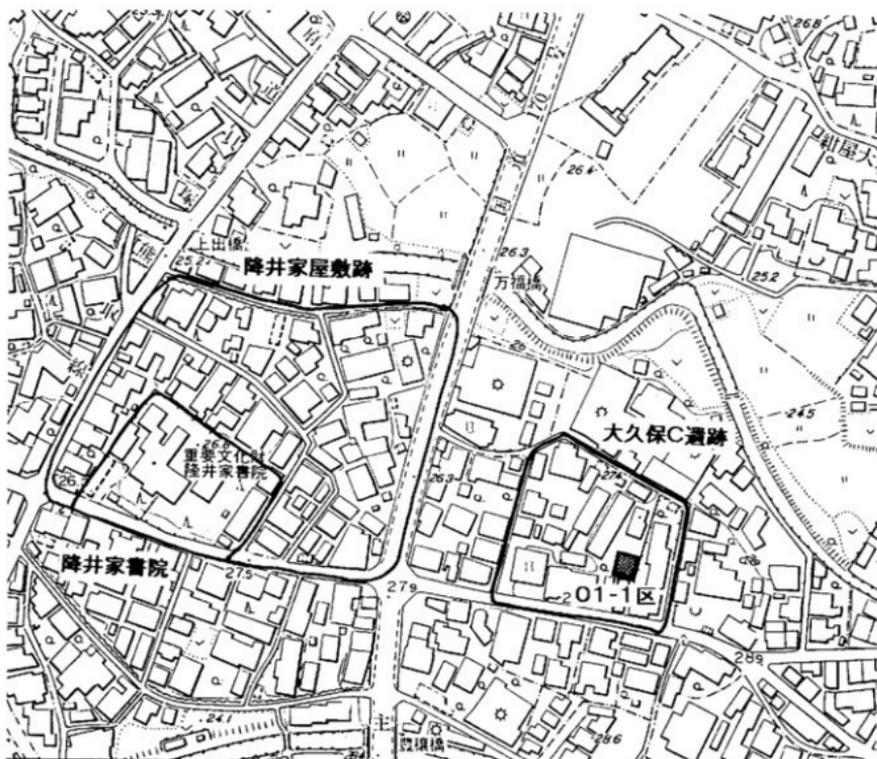
工事は個人住宅の新築工事で、図のように調査区を設定して、機械によってGL下-1.0mまで掘削する確認調査を実施した。現地表面下-0.4mまでには造成の盛土が存在するが、以下近現代の耕作土が0.2mほど、さらにその下に0.2mほど中世のものと思われる耕作土系の層があった。さらにその下に0.1mほどの褐灰色の古代の可能性のある層が一層ある。以下は地山である。地山面は削平を受けておらず、残存状態は良好といえる。遺構や遺物は一切確認できなかった。



小 結

これまでの朝代北遺跡における確認調査の中でも最も残存状態の良い土層サンプルを観た。残念ながら土器破片などの埋蔵文化財は一切検出できなかったが、明らかに中世～古代まで遇れそうな耕作土系の層が存在していることは、付近にそれらを生み出した人々の居住した集落等の遺構が存在していることを確信させるものであったと言える。

第13節 大久保C遺跡01-1区の調査



調査地 大久保東一丁目7番8号

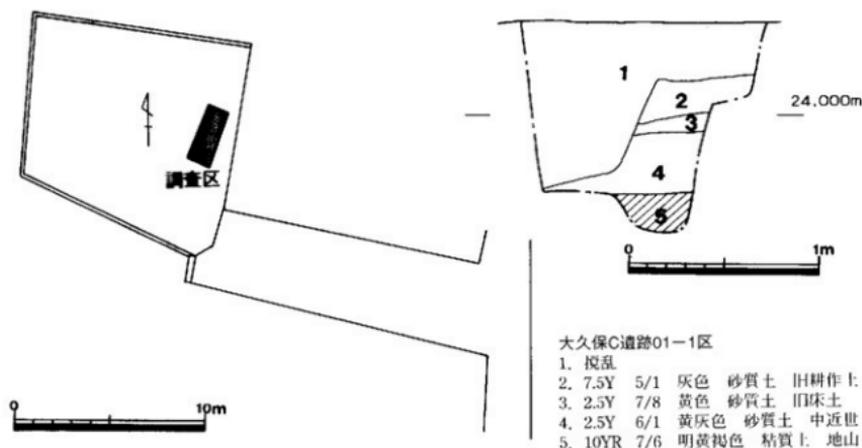
調査期間 平成14年3月13日

位置と環境

調査地点は遺跡の西南端に位置している。周辺には大久保の集落がぎっしりと立ち並んでいる。申請地より東側では個人住宅建設に伴って大久保C遺跡97-1区と00-1区の調査を実施して中世期の柱穴や遺物を検出している。いずれにせよ周囲を完全に住宅に囲まれた狭い街路の一角に位置している。

調査内容

調査は機械掘削によって実施した。GLより約1.0m下まで掘削を行った。GL-1.0mまで大きく攪乱されているが、一部には旧の耕作土などが残存しており、状況を推測することができた。この申請地ではGL下-1.0m付近に地山が存在している。その上面には中世の耕作土系の層が約0.3m程堆積している。さらにその上には近世頃の耕作土系の層が0.3mほど存在している。土器破片などの埋蔵文化財は検出しなかった。



小 結

残念ながら今回の申請地は大きく攪乱されていた。僅かに旧地形が残存しており、かつての状況を偲ぶことはできた。およそ0.3m程存在する耕作土系の層は中世のもので、大久保C遺跡では全般に共通して分布するものと同様であろう。残念ながら柱穴などの遺構は一切検出されなかったが、いずれ必ず周辺から中世もしくは古代からの建物跡などが検出されるものと確信している。

第4章 まとめ

以上、城ノ下遺跡、久保A遺跡、東円寺跡、中家住宅周辺遺跡、朝代北遺跡、大久保C遺跡、6遺跡13件の国庫補助事業に伴う発掘調査成果を報告した。

城ノ下遺跡

平成8年度に今回の個人住宅の申請地の隣接地約10,000㎡の工場跡を宅地開発する際に実施した確認調査（SNS96-1区）同様、過去の大幅な造成によって完全に削平を受けた自然の地層（地山）が即検出される残念な状況が視られた。当遺跡が存在する名も無い丘陵地に中世になんらかの城郭が存在した可能性はあるが、埋蔵文化財として確認された例は未だ挙げられていない。

久保A遺跡

平成12年度に実施した町道小谷穴釜線の新設工事に伴う発掘調査（KBA00-1区）では13～14世紀頃の掘立柱建物1棟を検出した。今回の個人住宅の申請地がその西隣接地であるため、当然その成果につながる埋蔵文化財の検出が期待されたが、遺構面である地山面までの距離は深く、また中世の包含層の存在は確認できなかった。これは申請地がこれまでの開発で既に大幅な視乱を受けてしまっていることを示すものである。

東円寺跡

今や町内最大の分布範囲となってしまっている東円寺跡では確認調査を8件実施した。野田二丁目の宅地開発に関しては今年度2件の本調査（02-3区、02-5区）を実施し成果を挙げた。この付近では過去にも本調査を実施した経緯があり、かねてより重要地点としての認識があったが、調査の結果鎌倉時代から室町時代にかけての集落の一端である建物跡を合計4棟検出した。この02-3区内には最も規模の大きな建物SB2を検出し、その東に規模の大きな井戸SE1を検出した。02-5区は02-3区のすぐ西側の個人住宅地であり、建物SB2の続きを検出した。この野田二丁目における住宅開発は残り3件が予定されており、その調査によってさらに集落の形状が確かめられるだろう。その他の調査では成果は見られなかった。

中家住宅周辺遺跡

本遺跡内では平成9年以来数度にわたって確認調査を実施しているが、その都度検出されているのは、過去の繊維関係の工場の中残留物である。現在の重要文化財中家住宅の南側一帯には大正～昭和初期にかけて非常に巨大な繊維関係の工場が営まれていたらしく、その状況が様々な記録に残されている。また中家住宅の北側にも今でもなお巨大な旧中林綿布工場跡地が存在しており、熊取町の大正～昭和前半期の繊維産業を核とした活況を非常に彷彿とさせるものである。本遺跡は中家の周辺に営まれた集落に関するものであるが、中家住宅そのものを発掘調査し、その成果を公開することが非常に困難な事情が存在することから、当住宅の周辺を調査することによって様々な事柄を浮き彫りにするようなプロセスも熊取の歴史を解明していく上では非常に有効な方法である。

大久保C遺跡

残念ながら今回の調査地点（01-1区）は大きな擾乱を受け大きく破壊を受けていた。僅かに残された土層に中世期のもと思われる層が観られたことから、これまでの周辺地での調査成果と照らし合わせて、周辺一帯に大きな中世の遺構が存在する可能性がある。

朝代北遺跡

朝代北遺跡は日下中世包含層のみ確認するに留まっている遺跡である。国庫補助対象となる個人住宅建設以外の民間開発にともなう数件の試掘調査でも中世遺物包含層を検出し、遺跡としての範囲は比較的大きなものとなっている。今回の調査地点は河岸にあたり従来から開発が及ばなかった不毛の場所であったものと考えられる。広範な遺跡内で調査を継続すればいずれ中世期の建物跡が検出されることになるだろう。



城ノ下遺跡02-1区



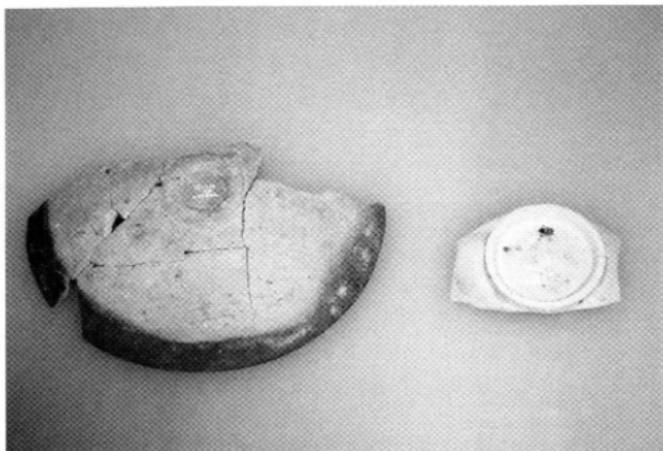
久保A遺跡02-1区



東円寺跡02-1区



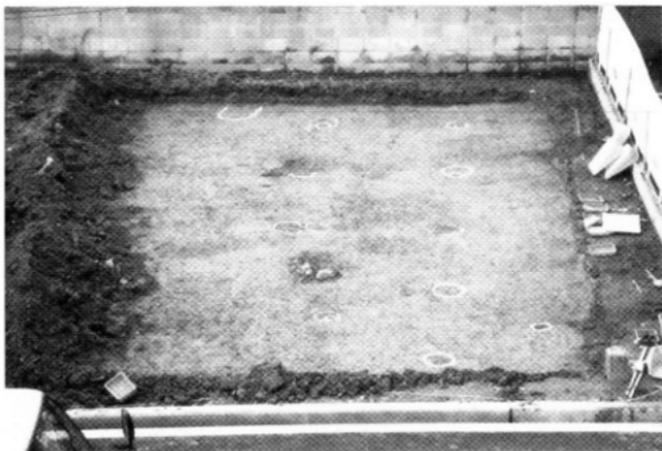
東円寺跡02-3区



東円寺跡02-3区 出土遺物



東円寺跡02-3区 出土遺物



東円寺跡02-5区



東円寺跡02-4区



東円寺跡02-6区



東円寺跡02-10区



東円寺跡01-5区



東円寺跡01-7区



中家住宅周边遗址02-1区



朝代北遗址02-1区



大久保C遺跡01-1区

報告書抄録

ふりがな		くまとりちょういせきぐんはくつちようきがいうほうこくしょ						
書名		熊取町遺跡群発掘調査概要報告書						
巻次		X VII						
シリーズ名		熊取町埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号		第40集						
編著者名		前川 淳						
編集機関		熊取町教育委員会						
所在地		〒590-0495 大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号						
発行年月日		西暦 2003年3月						
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
城ノ下遺跡 02-1区	大阪府泉南郡 熊取町小谷	27361	7	34° 23' 25"	135° 22' 40"	20020425 20020425	2.0	個人専用 住宅建設
久保A遺跡 02-1区	大阪府泉南郡 熊取町小谷	27361	36	34° 23' 28"	135° 22' 31"	20020507 20010507	6.5	個人専用 住宅建設
東門寺跡 02-1区	大阪府泉南郡 熊取町野田	27361	6	34° 23' 46"	135° 22' 54"	20020508 20020508	4.0	個人専用 住宅建設
東門寺跡 02-3区	大阪府泉南郡 熊取町野田	27361	6	34° 23' 53"	135° 21' 22"	20020730 20020806	146.0	個人専用 住宅建設
東門寺跡 02-5区	大阪府泉南郡 熊取町野田	27361	6	34° 23' 53"	135° 21' 17"	20020930 20021002	132.0	個人専用 住宅建設
東門寺跡 02-4区	大阪府泉南郡 熊取町野田	27361	6	34° 23' 50"	135° 21' 52"	20020821 20020821	5.0	個人専用 住宅建設
東門寺跡 02-6区	大阪府泉南郡 熊取町野田	27361	6	34° 23' 48"	135° 21' 53"	20021015 20021015	2.0	個人専用 住宅建設
東門寺跡 02-10区	大阪府泉南郡 熊取町野田	27361	6	34° 23' 50"	135° 21' 18"	20021203	2.5	個人専用 住宅建設
東門寺跡 01-5区	大阪府泉南郡 熊取町野田	27361	6	34° 23' 46"	135° 21' 36"	20020115 20020115	3.0	個人専用 住宅建設
東門寺跡 01-7区	大阪府泉南郡 熊取町紺屋	27361	6	34° 23' 48"	135° 21' 53"	20020125	2.6	個人専用 住宅建設
中家住宅周辺遺跡 02-1区	大阪府泉南郡 熊取町五門西	27361	39	34° 23' 51"	135° 21' 00"	20020909 20020909	2.0	個人専用 住宅建設
朝代北遺跡 02-1区	大阪府泉南郡 熊取町野田	27361	40	34° 23' 06"	135° 21' 15"	20021218	2.0	個人専用 住宅建設
大久保C遺跡 01-1区	大阪府泉南郡 熊取町大久保東	27361	31	34° 23' 54"	135° 20' 55"	20020313 20020313	3.0	個人専用 住宅建設
所収遺跡	種別	遺跡の主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
城ノ下遺跡02-1区	城跡跡	鎌倉～室町時代		なし		なし		一切なし
久保A遺跡02-1区	散布地	室町～江戸時代		なし		なし		一切なし
東門寺跡02-1区	寺院跡	縄文～江戸時代		なし		なし		層：鎌倉～室町時代
東門寺跡02-3区	寺院跡	縄文～江戸時代		掘立柱建物1棟、井戸		瓦器、瓦、白磁		13世紀代の建物
東門寺跡02-5区	寺院跡	縄文～江戸時代		掘立柱建物1棟		瓦器		13世紀代の建物
東門寺跡02-4区	寺院跡	縄文～江戸時代		なし		なし		層：鎌倉～室町時代
東門寺跡02-6区	寺院跡	縄文～江戸時代		なし		なし		層：鎌倉～室町時代
東門寺跡02-10区	寺院跡	縄文～江戸時代		なし		なし		層：鎌倉～室町時代
東門寺跡01-5区	寺院跡	縄文～江戸時代		なし		なし		層：鎌倉～室町時代
東門寺跡01-7区	寺院跡	縄文～江戸時代		なし		なし		層：鎌倉～室町時代
中家住宅周辺02-1区	集落跡	鎌倉～室町時代		なし		なし		一切なし、土壌検出
朝代北遺跡02-1区	寺院跡	室町		なし		なし		層：奈良～室町時代
大久保C遺跡01-1区	散布地	平安～室町時代		なし		なし		層：奈良～室町時代

熊取町埋蔵文化財調査報告 第40集
熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XVII

発行日 平成15年3月

発行・編集 熊取町教育委員会
大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号

印刷 小笠原印刷(株)

大阪府泉佐野市上瓦屋646番地